

日 時：令和5年8月31日(木) 13:30

場 所：市役所 政策会議室

出席者：市長、政策推進室長、地域振興部長、水産課長、秘書係長

取材者：NHK、IAT（岩手朝日テレビ）、IBC（岩手放送）、岩手日報社、河北新報社、読売新聞社、東海新報社、毎日新聞社、

（敬称略、順不同）

市長挨拶

陸前高田市長の佐々木拓でございます。よろしく申し上げます。

本日皆様にお知らせしますのは、東京都港区に本社があります、株式会社ニッスイが陸前高田市の広田湾において新たにサーモン養殖事業を開始するということが、8月29日に決定したことについてであります。

なお、この事業につきましては、広田湾漁業協同組合の全面的な協力のもとで両者が合同で取り組むということになっております。

参考までにですが、株式会社ニッスイにつきましては、東京港区に本社を持つ大手の水産・食品会社であり、全国でブリやマグロ、サーモンなどの養殖事業の他に、漁業や食品加工なども行っております。

アメリカやヨーロッパ、南米、アジア等に関連会社を持つグローバル企業でもあり、日本の水産分野ではトップ企業の一つであります。

会見項目 ㈱ニッスイのサーモン養殖の開始について

(1) 魚種について

今回、事業の対象になりますのは、ギンザケという種類のサーモンの養殖を始めるということで、皆さんご存知のとおり寿司ネタで人気がある魚でもあり、最終的な目標生産量としては数千トン単位の規模で行い、売上からすると約数十億円規模の事業になるという風に聞いております。

後ほど詳しく説明しますが、今年の11月頃から試験養殖を始め、市内漁業関係者のご理解とご協力を得ながら、特に大切なのは、丁寧に漁業関係者の方に説明をしながら進めるということになっております。

(2) 場所について

養殖の場所については、広田半島の沖合の広田湾の海域を予定しております。

(3) 組織体制について

(株)ニッスイは、陸前高田市内に事業所を設立した上で、広田湾漁業協同組合の組合員として養殖事業を行うことになっております。

(4) 事業スケジュール及び試験養殖について

本年11月から小規模な試験養殖を行います。ギンザケ養殖は約50年前くらいに陸前高田市でも行われていましたが、当時はイワシやサバなどの生の餌を与えて海の環境が悪化したという経験が本市にはあり、これを知っている漁業者の方も少なからず地元いらっしゃいます。

養殖技術につきましては、当時から現在に至るまでにノルウェーなどの技術革新により飛躍的に改善されているという状況で、効率化がかなり進んでいる状況にあります。

一番の特徴はノルウェーのフィヨルドや南米チリのパタゴニアなどで環境を汚さない配合飼料が開発され、養殖する場所についても生け簀の耐久性が増して、湾の外側などの水の流れの良いところでも養殖が可能になったということです。

さらには、ニッスイは環境基準の厳しい南米のチリでサーモン養殖を長い間実施しているという実績もありますので、環境に配慮した養殖技術は世界トップレベルであります。

なお、岩手県内においても、現在ニッスイが行っている大槌町、あるいは他にも宮古市・釜石市・久慈市などにおいてもサーモン養殖は行われていますが、海洋環境、海水の水質、海底の底質などの環境が悪化したという事例は今のところはないという状況であります。

今回、広田湾でこうした養殖を行うに際しても、まず慎重にということで、小規模なレベルで環境の影響を調べながら最適な養殖の方法や場所をご検討し、地元の漁業関係者に安心していただきながら事業を進めるということになりました。

私もかつての職場でニッスイという会社も見てきましたけども、特にコンプライアンス、法令遵守ということについては、これを大事にしている会社であると認識をしており、この点からも持続可能な養殖業が行われると確信しております。

これは、今回の事業が始まる上で非常に大事な点であると思っております。

ニッスイの進出によって、陸前高田市の発展にどのような効果が期待されるかということにつきましては、最初は小規模ですので数名程度から最終的には約20名程度の直接雇用が生まれると聞いており、この他、水産加工、運送、製氷、包装などの関連産業への波及効果、そして現在も鮭の大不漁により地元の漁協の経営もかなり厳しくなっているという状況の中で、漁協に新しい強力な組合員を迎えるということで、漁協経営にもプラス効果が期待されます。

さらには、最終的には数十億円規模の新たな水産資源がこの陸前高田市の資源として誕生することで、これを地域資源として積極的に活用できると考えております。

先日、8月5日にカモシーでトークショーなどがありましたが、その中でもこのことに少し触れており、陸前高田の発酵食品である醤油とか味噌などとコラボした商品開発などについても面白いのではないかと、関係者からはご意見をいただいているところでもあります。

我が国の水産、そして食品のトップ企業であるニッスイが当市において事業を行うということになりますので、新たな地域ブランドを全国に向けて発信するということにも繋がると期待しております。

また、当市には県立高田高校に海洋システム科という水産について学ぶ生徒の方もいらっしゃいますので、こういった水産のトップ企業が来ることが、水産や海洋関係の仕事を志す若者にとっても良い刺激になると期待しております

そして、これ以外の他の様々な分野においても、良い効果が期待できるのではないかと考えております

簡単ですが、私からは以上でございます。よろしく申し上げます。

【質疑】

質 問) <東海新報>

ニッスイと広田湾漁業協同組合との共同の取り組みということだが、この話は市の方にはいつ頃から届いてたか。

陸前高田市としての関わり方はどのようなものか。

市 長)

私が市長に就任した直後に、企業誘致の関係で話をしたい旨をお伝えし、ニッスイ側でも陸前高田市で養殖事業を行いたいという気持ちはあったが繋がりも無かったとのことで、私の方からの呼びかけに応じる形で今年の5月ぐらいに直接お会いし、事業実施の可能性について検討しようということになった。

それから私が広田湾漁協に直接説明を行ったところ、昨年、定置網を廃業して空いている漁場が広田湾に二箇所あるとのことだったので、そこであれば養殖は可能ではないかとの話になり、今回の事業を実施するという結論に至った。

これからの市としての関わりについては、現在のところは、建物を用意しての誘致や補助金を出して支援するという形ではなく、これから事業を開始するにあたって、岩手県に様々な申請手続きがあることから、これに対して漁協やニッスイへのサポートをしていくことや、試験養殖における水質や環境の調査などについて、岩手県と一緒に協力していくことになる。

質 問) <岩手日報>

今年の11月に海面生け簀で養殖するギンザケの稚魚は、今現在どこで育てているか。
また、遊休状態となっている広田湾漁協のさけ・ますふ化場の活用にもこの事業は結びつくのか。

市 長)

現在、ニッスイが大槌町でもサーモン養殖を実施しており、試験養殖であるので、大量に稚魚が必要でも無いことから、大槌町で使用している稚魚を育てているところと同じところから持ってくるのではないかと思うが、正確には承知していない。

広田湾漁協の所有しているさけ・ますふ化場の活用に関しては、ニッスイ側としては水槽の水深が少し浅いため、取水や排水の機能は活用するが、水槽はブルーシートなどを使用した簡易型のものを使用する予定であるという話も聞いているが、いずれ遊休となっている施設の一部でも活用に関わり、漁協の負担軽減になると考えている。

質 問) <岩手日報>

試験養殖が今年の11月に開始され、来年の4～7月までに200トンのギンザケが採捕する予定であるという認識でよいか。

そして、最終的に数十億円規模になるには何年後を見込んでいるのか。

また、生け簀の数もそれに合わせて増やしていくのか。

市 長)

試験養殖は1～2年を見込んでおり、そこから本格的な許可(免許)により運営することを想定しているが、参考までに、大槌町でも約2,000トンを見込んで養殖事業を2020年から開始している。今年が4年目で700トン弱の水揚げとなっており、環境的な要因もあることから簡単に達成できるとは限らないとは考えている。

また、生け簀の数については、最終的には30基くらいの数を考えているとのことであるが、それもこれからの試験養殖の具合などを見ながら固まっていくと思われる。

質 問) <NHK>

生け簀が25メートルというのは、25メートル×25メートルの物なのか。

市 長)

円形の直径25メートルの生け簀である。

質 問) <NHK>

今年の11月から養殖を行って水揚時期は来年の6月ということは、最初は淡水の状態で水揚するということか。

市 長)

最初から海面の生け簀で養殖を行う予定である。

質 問) <NHK>

配布資料で淡水養殖の期間が記載されているが、これはどういうことか。

市 長)

現在、他の場所の淡水で育成している稚魚を11月に持ってきて、海面の生け簀で養殖を行うということである。

質 問) <NHK>

淡水養殖で育成している稚魚は、去年の12月から養殖しているということか。

市 長)

はい。ニッスイは大槌町でも養殖を行っているので、そこで育成するための稚魚を育てている。

質 問) <NHK>

大槌町の淡水養殖場で育成している稚魚を今年の11月に持ってくるということか。

市 長)

大槌町の会社が仕入れをしている淡水養殖場から持ってくるということである。

質 問) <NHK>

試験養殖で環境への影響を調べながらとあったが、どのような影響が見込まれるか。

市 長)

今のところは環境に与える影響については問題ないと考えているが、試験養殖場として、水の通りの良い半島の先端にある場所と内湾側で波や風の影響が軽減できて静穏な場所の2箇所を検討している。

静穏な場所で試験養殖を行って水質がもしも悪くなるということであれば、水の通りの良い場所で養殖を行うということになると思われるが、今のところそういった状況は想定されていない。

質 問) <NHK>

上手くいけば、両方の場所で養殖を行うということか。

市 長)

そうだと思う。

質 問) <NHK>

水質が悪いというのはどういうことか。

市 長)

今はそんなことは無いが、例えば昔はイワシとかを直接食べさせていたので、食べ残しがあるとイワシの油が海底に溜まったり、ギンザケの排泄物によって水質が悪くなるということがあった。

質 問) <NHK>

現在のニッスイの持っている技術ではそういった心配は少ないということか。

市 長)

少なくとも岩手県や日本でやっているサーモン養殖では、そういった問題が出ていないと聞いている。

エサも配合飼料と言って、海底に沈まずにずっと浮いているようなエサであると聞いており、色々な改良がこの40～50年でされている。

質 問) <NHK>

岩手県の沿岸では、大槌町や釜石市でも盛んにサーモン養殖が行われているが、他の市町村との差別化をしていくために、現時点で市として何か工夫していくことはあるか。

市 長)

ニッスイが陸前高田市に関心を持ったのが物流面で、出荷時に三陸道を使用して仙台まで早く行けるという便利な点が魅力であり、大槌町と比較しても1時間くらいは早くなるという所が差になると伺っている。

このため、他の地域と比較しても立地条件自体が当市の優位性となっており、今後のPRなど当市がどのようにニッスイを支援していくかについては、これから具体的に詰めていきたいと考えている。

質 問) <NHK>

今後、PRに向けた意見交換会や試食会などのやりたいことはあるか。

市 長)

一つ大槌町を見て良いと思ったのが、7月くらいに開催されているサーモン祭りで、町民の数よりも多い1万数千人の観光客が来てつかみ取りなどを行い、町自体が賑わっているのをニュースで見て、当市でもやりたいと思ったものである。

その他にも西京漬けや味噌・醤油を使った加工品であるとかをふるさと納税の返礼品にしたら、原料から調味料まで全て陸前高田市のものであるということで、すごく良いと考えており、そういった色々なアイデアをいただきながら有効活用できる養殖試験になると考えている。

質 問) <NHK>

地元の飲食店や企業などに見てもらいながら、どう商品開発するかを考えていきたいということでしょうか。

市 長)

はい。

質 問) <読売新聞>

資料にある8月29日に決定したというのは、何をもって決定したということか。

市 長)

ニッスイについては既に決定していたが、広田湾漁業協同組合が8月29日に、意思決定機関である理事会に正式に諮り、試験養殖について承認されたということである。

質 問) <読売新聞>

ニッスイグループが事業所を設立ということであるが、大槌町では子会社の弓ヶ浜水産が事業所を作っているが、陸前高田市でも同じような形式になるのか。

市 長)

弓ヶ浜水産は鳥取にあるニッスイの子会社であるが、ニッスイの場合はあまりに会社が大きすぎるので、本社は漁協の組合員にはなれないため、中小企業の子会社を作り、その子会社が漁協の組合員になるという形態をとる予定であり、これは大槌町も同じようにしている。

質 問) <読売新聞>

ニッスイが事業所を作るのに関して、新たに子会社を陸前高田市に設立をするのか、子会社が事業所を設置するのかで形式が違うと思うが、現在決まってることでは何と表現するのが一番適切か。

市 長)

新しく子会社を作るか、既存の弓ヶ浜水産が事務所を作るのかはまだ決まっていないことから、ニッスイの子会社が陸前高田市に事業所を設立するという表現が適切である。

質 問) <読売新聞>

岩手大槌サーモンのような陸前高田市オリジナルのブランドは新たに作るのか。

市 長)

我々の方は、そういった希望はあるが、まだその部分については決まっていない。

さすがに、陸前高田市で育ったものが大槌サーモンにはならないので、その辺は我々の意向を汲んで貰えると考えている。

質 問) <読売新聞>

事業所の設立の時期は決まっているか。

市 長)

11月までに設立されると思う。

質 問) <読売新聞>

海面に生け簀を設置するということであるが、例えば陸上に出荷のための設備などの建物を作る予定はあるか

市 長)

事業所をどうするかも含めて、新しく作るか、既存の施設や建物を活用するかについてはまだ決まっていないが、できるだけ使える物は使いたいという意向であった。

質 問) <毎日新聞>

ニッスイと広田湾漁業協同組合が共同でサーモン養殖を開始するということであるが、共同とする以上、出資関係や団体関係などはあるのか。

市 長)

ニッスイの子会社が広田湾漁協の組合員になり、漁協が所有している養殖を行うための区画漁業権を行使して養殖を営むので、そういった面で合同や共同という言い方をしている。

質 問) <毎日新聞>

権利関係の話で、実際の事業についてはニッスイの事業として行い、ニッスイで完結するということなのか。

市 長)

経営リスクなどについては、ニッスイが全てを負うということである。

質 問) <毎日新聞>

ギンザケ養殖を行うということであるが、他の魚種を養殖しているエリアもある中で、ニッスイが陸前高田市での養殖でギンザケを選択した理由は聞いているか。

市 長)

最終的には、ギンザケを9割程度にし、後はトラウトサーモンを1割程度は作りたいたいという話はあるが、トラウトサーモンは生残率があまり思わしくないので、養殖の様子を見ながらという話を聞いている。

質 問) <毎日新聞>

事業規模の数千トンとか数十億というのはトラウトまで入ったマックスの数字か。

市 長)

3,000トンまでいくのが当面の目標と聞いているが、それで終わりではないということらしい。

質 問) <毎日新聞>

5月にニッスイと話をし、その後に広田湾漁協と話をしたとのことだが、期間としては短く、スピーディに行われたと思うが、漁協からは水質のこと以外に、特段何か懸念や意見は無かったということでしょうか。

市 長)

水質の話については、漁協とは全くそういう話は無く、一部の漁業の方で昔のこと知っている方がそういった懸念を抱いていたということである。

早く話が進んだのは、空いている漁場があったということも大きかったと思う。

また、鮭が不漁で漁協経営が大変なところに、先ほど話のあったふ化場の活用の話などもあったことから、検討が早く進んだような気がする。

質 問) <毎日新聞>

市内の秋鮭における、近年の漁獲状況に関する数字があれば教えて貰いたい。

水産課長)

詳しい数字は押さえていないが、昨年は1万匹程度が気仙川に遡上したものを採捕したと聞いている。トン数換算については、資料が手元に無いので、後で提示する。

質 問) <NHK>

昔、ギンザケの養殖はいつからいつまでやっていたのか。

市 長)

昭和50年代から10年くらい行った後、当市では全部廃業されたが、宮城県の志津川などでは今なお続いている。

質 問) <NHK>

10年ぐらいやって廃業した理由としては、環境の悪化などが主な理由なのか。

市 長)

おそらく生産過剰になり、魚価が下がって赤字で廃業したということだと考える。

質 問) <NHK>

赤字になって採算が取れなくなったところと環境の悪化の2点ということか。

市 長)

廃業には環境の悪化は関係してなく、儲からなくなったために廃業したということだと考える。

質 問) <河北新報>

候補地が2箇所あり、生け簀も2基であるということは、一箇所ずつ生け簀を設置するということか。

市 長)

試験のやり方について。最初は沖の方で二か所設置して様子を見るのか、それとも内側の方で二か所設置して様子を見るのか、それとも一基ずつ設置するのかということころまでは具体的には聞いてない。色々と下準備や下調べをした上で進めていくと思われる。

質 問) <河北新報>

将来的な規模については、大槌町以上ということになるのか。

市 長)

はい。地形的なものなのかどうかは分からないが、大槌町よりは多くしたいという話があった。

質 問) <河北新報>

トラウトの生残率が良くなかったとのことだが、どこでやった時の話なのか。

市 長)

大槌町で養殖した時のものだと思われるが、詳細は知らない。

質 問) <河北新報>

大槌町で養殖した時に良くなかったので、陸前高田市ではギンザケという話なのか。

市 長)

そういうことかと思う。

質 問) <岩手日報>

販路に関して、生産したものはニッスイの全量買取りになるのか、それとも何割何割でとか、陸前高田市の企業や周辺の水産加工業者が買い取ることになるのか。

市 長)

当初、私もニッスイが生産から販売まで一気通貫でやる会社だと思っていたが、加工については現地の加工業者をお願いしていることも、今回のような場合はあるそうなので、ニッスイで全部やるということではないと考える。

どのような加工業者との契約になるのかは、商売に関わることなので不明である。

質 問) <岩手日報>

育成したギンザケをどのように流通に乗せて、金銭を生み出すかについてはまだグレーゾーンであるということか。

市 長)

はい。

質 問) <岩手日報>

大船渡の魚市場に上げられて、その流通に関わっていく可能性もあるということか。

市 長)

個人的な意見であるが、一般の流通に乗せてしまうと、大槌町や宮古市、釜石市などとの差別化も難しくなるため、ニッスイくらいの会社となると巨大な販売網も持っているので、そういったことで差別化して売れることもできると考えているが、そこについては市況を見ながら、流通の会社も多く所有しているので、自分で売った方が儲かるのであれば自分のところ販売するなど色々考えながらやると思われる。

質 問) <岩手日報>

一般の漁業者が持っているルートではなく、ニッスイが持つ加工業者のルートで加工するのか。

市 長)

加工については、ニッスイが持っている加工業者のルートという訳ではなく、委託加工するのか、売り渡すのかは分からないがこの辺の地元の加工業者にお願いすると思われる。

質 問) <IBC (岩手放送)>

生け簀に投入する稚魚の量、又は重さは分かるか。

市 長)

10か月経過して卵から海に投入する稚魚の重さが180gであり、数としては8万尾程度と思われる。

質 問) <東海新報>

今回、事業所が新たに設立されるということであるが、佐々木市政にとっての誘致企業第1号という捉え方でよいか。

市 長)

はい。

質 問) <NHK>

水揚げされたものは基本的に地元で消費していくのか、それとも首都圏や仙台のような大都市圏にいくのかなど、どのくらいの割合で出すという目標でもあれば教えて貰いたい。

市 長)

具体的な数字は聞いてないので分からないが、地元には飲食店は少なく、多分寿司ネタとなることから、日本全国に行くと思われる。

その中で、陸前高田市の資源として一定程度は地域に必ず回して貰うことになると思われる。

質 問) <NHK>

今後、地元でも消費して貰うためのイベントなどの働きかけを行っていくのか。

市 長)

地元消費もそうであるが、観光客の方々などを呼ぶ時の魚介類のラインナップが一つ増えると考えている。

質 問) <毎日新聞>

市長選の公約の中に企業誘致が入っていたと思うが、政治家として今回の事業が事業化に進んでいくことについて、政治的な意味とか公約について達成したとか、どのように受け止めているか教えて貰いたい。

市 長)

具体的には、農林水産業の生産額を倍増するということを掲げており、それにはかなり貢献すると考えている。

数千トン、例えば3,000トンぐらいの目標になれば、それを換算すると市況によっては原料だけで20~30億円になるので、それだけで倍増になると思われる。

なかなか直ぐにはそうはいかないと思われるが、少なくともかなり目途が立ったと思っている。

それと、雇用については、養殖はかなり省人化しているので、直接雇用は20人程度であるが、市の加工業者の原料が供給されるといった面で、雇用、あるいは関連産業の収益改善には凄く貢献すると思っている。

あと、間接的に一部上場のグローバル企業が来ることによって、グローバルな市の展開も望んでいるので、今後色々な可能性が広がると期待している。